

～カワウを通して野生生物と人の共存を考える(その15)～ カワウ被害対策の現場の声を聞く

～Consider the coexistence between human and great cormorant vol. 15. ～ The boice of fisherman faced to cormorants.

山本 麻希 (長岡技術科学大学)、加藤ななえ (バードリサーチ)

Maki Yamamoto(Nagaoka Univ. of Tech), Nanae Kato (Bird Research)

趣旨書

近年、カワウの生息数が急増し、それとともに全国で深刻な漁業被害が生じています。野生鳥獣の保護管理には、「個体数管理」、「被害防除対策」、「生息地管理」の3つを総合的に実施していくことが大切です。これまで、一昨年は被害防除対策、昨年は個体数管理について、最先端の事例を取り上げ、それぞれ、第一線の研究者から話をうかがってきました。

今年は、カワウと人の共存を考えていく上で、とても重要な現場の声に耳を傾けることをテーマとして取り上げました。私達研究者は、カワウと人の共存を目標として被害対策の技術や個体管理について研究を続けているわけですが、現場で実際にカワウと対峙している漁業者の方の声を知った上で、研究に取り組むことはとても大切なことだと思います。

カワウの被害対策は、鳥獣の中でも非常に被害対策が難しい動物とされています。飛翔できるため、哺乳類のようにフェンスや電気柵での防除ができません。また、学習能力が高く、簡単な刺激ではすぐに馴れてしまうため、人が直接、花火を持って追い払わなければなりません。

しかし、全国には、カワウの被害対策に熱心に取り組まれ、多数のカワウが生息しているにもかかわらず、アユ漁を守っている漁協さんがいらっしゃいます。そのような素晴らしい取り組みをされている山梨中央漁協組合員 宮沢勝造様と群馬県上州漁協総代 山田勝次様より御講演をいただきます。また、カワウの被害対策を都道府県の研究機関として、現地に最も近いところで支援を行っている山梨県水産技術センターの坪井潤一様、群馬県水産試験場の田中英樹様から、県と漁協の協力体制やその支援の現状について御講演頂きます。

カワウの被害防除対策を円滑に進めていく上で、問題となっている点について、現場で被害対策を行っている漁協の方から問題提起をしていただき、今後これらの問題を解決する上で、私達研究者は、どのような研究課題に取り組まねばならないのか、時間の限り議論して行きたいと思っております。是非、みなさまの御参加をお待ちしております。